

($2n=50$), tetraploid ($2n=100$) and hypertetraploid ($2n=102$), were found in Hiroshima City and its surrounding areas. Diploids occur along the coast and tetraploids widely in the inland, while hypertetraploids in the low lands along the Ohta River.

文 献

Kurita, S. 1959. Journ. Jap. Bot. 35: 269-272. Mitui, K. 1968. Sci. Rep. Tokyo Kyoiku Daigaku, Sec. B, 13: 285-333.

○イボウキクサ (浜島繁隆) Shigetaka HAMASHIMA: A new naturalized duckweed, *Lemna gibba* L.

1974年6月、愛知県海部郡弥富町の農業用水路に約1kmにわたりイボウキクサ *Lemna gibba* L. が大繁殖していた。本種は、根は1本で、フロンド (frond) は広倒卵形または短円形で、大きさは $4\sim5\times3\sim4$ mm、表面には不規則な斑紋があり濃緑色をしている。下面は淡緑色スポンジ状で、 $2\sim3$ mmの厚さにふくれた浮のうが発達している。フロンドの大きさ、浮のうの発達は、水域の栄養の良否で大きな差がみられる。生育地では、ウキクサゾウムシ *Tanysphyrus lemnae* Paykull による食害がみられ、フロンドの表面に丸く点々と穴があげられているのが目立った。

本種は、ヨーロッパ、北アメリカ、亜熱帯アフリカ、オーストラリアに広く分布するが日本では野外で生育している記録は今迄にない。この種が我が国に最初に持ち込まれたのは、10数年前、名古屋大学、太田行人教授がアメリカのエール大学、W.S. Hillman博士より植物生理の実験材料として入手したものである。現在では、それが各地の大学・研究所に分けられ実験材料として使用されているようである。今回、野外で発見されたイボウキクサも多分、アメリカより持ち込まれたものが逸出繁殖したものと思われる。本種の和名は、大滝末男氏が1963年、太田教授より譲られたものについて伊藤洋博士がイボウキクサ (疣浮草) と命名した (大滝1963, 野草 No. 276)。本報告にあたり、ご教示賜わつた太田、大滝氏、ならびに図の一部を書いていただいた波多野正氏に感謝します。 (名古屋市, 市郷学園高蔵高校)

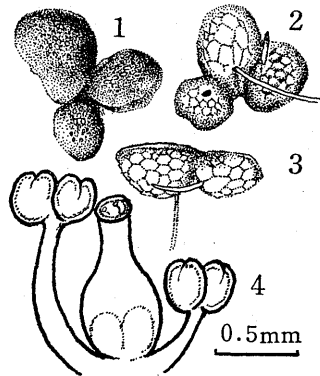


図. *Lemna gibba*. 1-3. 葉状体 ca $\times 3$. 1. 表面. 2. 裏面. 3. 側面. 4. 花.